

香梅の候 宮崎県防衛協会 青年部会 宮崎支部会員の皆様には恙なくお過ごしのことと、ご拝察を申し上げます。

先月は本県に於いても新型コロナ感染者が急増した為、東京等に先駆けて「緊急事態宣言」を発令致しましたが、2週間では思うような効果が見えず今月7日まで延長されました。また菅政権下では初めての通常国会が始まり、コロナ対策を中心に与野党の大論戦が展開される中で、一体野党がどのような対案を出すのか、一国民として大いに興味は尽きません。

さて1月も自衛隊関連行事は全て中止され例年と異なり寂しい正月で、また今月6日に予定しておりました宮崎支部総会も、現在の状況を鑑みて今年はやむなく中止とさせて頂く次第です。一年振りの総会を楽しみに待っておられた支部会員の皆様には誠に申し訳なく、正に忸怩たる思いですが諸事情をご賢察の上、何卒ご理解賜れば幸甚に存じます。

そこで例年総会内で配布していた令和3年総会資料を送付致しますのでご一読頂き、ご意見等は同封葉書にご記入下されば私が回答をさせて頂きます。その後皆様のご承認を頂いた上で、令和3年度の事業計画案及び予算案に沿った支部活動を粛々と運営していく所存です。

また支部会員の皆様に送りました自衛隊パッケージの羊羹と缶入りドロップは、東京市ヶ谷のミリタリーショップ「三将」で購入し総会記念品として準備させて頂いた物ですが、賞味期限が迫っていますので皆様には早めにお召し上がり頂かねばならず、2月号支部長通信を少々フライング気味に送付致さねばならぬことを何卒ご容赦下さい。

相変わらず猖獗を極める新型コロナの猛威が収まらぬ中、静岡では変異型コロナ発生まで報告され、果たしてファイザーワクチンの有効性やらその副作用、そして一億二千万人分のワクチン手配はしたらしいものの、一体いつから接種が始まるのか等々国民の不安は尽きません。

今月も小川先生より届いたメルマガの中から「コロナ絡み」のタイムリーな一文を転載致しますので、ホームステイ中の皆様には是非ともご高覧賜れば幸いです。

## ・東京都医師会・尾崎会長への現場からの声

東京都医師会長の尾崎治夫さんの**発言に賛否の嵐**が巻き起こっています。

「東京都医師会のトップが焦りを募らせている。尾崎治夫会長は連日のように**メディアに出演し、新型コロナウイルスへの感染防止**を呼びかけているが、一向に人の動きが止まらず、東京都の1日の感染者数は過去最高を記録。『1日1000人の感染者は現実になる。既に助かるべき命が助からない状態になってきている。**ロックダウンに相当する強い対応を**』。語気を強め、人々や政

府に訴えかけている」(12月28日付毎日新聞)

尾崎さんは続けます。「高齢者が外出しなくなると、認知症や(心身の機能が低下する)フレイルを引き起こす心配もあります。だから本当は**ロックダウン**や緊急事態宣言はいらないし、出してほしいとは思っていません。

でも、みなさんに守ってもらえないなら、緊急事態宣言やロックダウンに相当する対応しかないんです。まだ1日の感染者数が1000人を超えていないから、と現状の数字で判断しては手遅れになります。今、この時点で人の動きを止めず、このまま感染者が増えれば、**医療が崩壊**するんです。自分や自分の周りの人が、体調が急変したのに、どこの病院にも受け入れられずに亡くなっていく、そういうのは誰でも嫌でしょう」

私は尾崎さんの発言について、同様の危機感を国民が共有すべきだと思い、**SNSで拡散**しました。

そして、尾崎さんは12月31日から元日に掛けてのテレビ朝日『朝まで生テレビ』に出演、持論を展開しました。

これに対して、**第一線の医療に関わる旧友**から「居たたまれずにメールした」と**厳しい指摘**が寄せられました。この人は旧帝国大学の医学部教授や大学病院の副院長を歴任し、厚生労働省でも行政実務を経験しています。

日本の医師は**診療科目**によって緊急事態にも手を汚さず、「**楽をできる自由**」を満喫している、その**代表格が尾崎さん**だということです。

・国民皆保険が実現して60年になるのに、まだ**無医村**がある実情をどう思うのか。電力会社は発足10年で日本国内の100%の電力供給を実現したのに、**医師会**は声をあげ、どこまで本気で政府を動かそうとしてきたのか。

・**大規模災害**で政府、自治体、マスコミなどを糾合してバックアップに取り組んだ経験からして、尾

崎さんにはそんな経験をしたことはおろか、緊急事態に対する図上演習すらしたことがないのは、発言を聞けば明らかだ。

・江戸時代まで「医者」と呼ばれていたのが、明治維新後に「医師」と尊称されるようになったのは、常に住民とともにあり、陸軍の師団長と同等の影響力のある存在と認識されたからで、だからこそ、警察とともに内務省の一翼を担うよう法制上も位置づけられた。

・いまこそ医師会はその原点に戻り、医療の責任と任務分担を政府に投げかけるべきだ。

私の友人だけでなく、SNS での尾崎さんのコメントには第一線でコロナと戦っている勤務医から、激的な批判が寄せられ、コロナとの戦いの語られざる一面を見せつけられた思いです。

「(前略)あの時は、入院が必要なインフルエンザ肺炎の患者さんが行く所は残っているのだろうか？と本気で『医療崩壊』を危惧した。所詮、A 会員(開業医)中心の医師会のオジサンどもにはわからないだろう。(中略)

日本の病床数は世界一、ところが PCR 陽性者も死亡者も欧米より 2 桁も少ない。こんなんでも『なんちゃって医療崩壊』するようなら、一度本当に医療崩壊しちまえ。オジサンたちよ、医療崩壊とやらを国民のせいばかりしてんじゃねえよ、根本から日本の医療制度を改めろよ。

ちなみに日本医師会長は脳外科開業医、どれだけコロナ感染の患者を診ているのか聞いてみたいものだ。現場の最前線にいるのは、我々B 会員(勤務医)だからね。

東京都医師会長も同罪、『モーニングショー』と並んで悪名高い『サンデーモーニング』にお呼ばれされた時点で、もう終わっている。またこの2つの番組など、過剰に不安を煽りまくるマスゴミが最悪。『なんちゃって医療崩壊』を現実のものとしようとしている原因は、コロナワイドショーじゃないのか。

因みに東京都医師会長は循環器内科開業医、12/27～1/3 まで休診なそう。日本医師会長のクリニックも 12/30～1/3 まで休診。コロナにお休みはないんでしょう？、総合病院の医療が逼

迫しているのなら、開業医レベルの軽症の患者くらい、休まず診療したらどうなのですか。」

私の友人も、この勤務医も、基本的には同じ考えのようです。医師会をリードする尾崎さんのような立場であれば、感染症にも耐えうる日本の医療体制の改革に取り組んできてしかるべきなのに、いまになって目立つような発言を繰り返し、次なる医師会のポストでも狙うつもりか、と怒り心頭に発しているように感じられます。

診療科目が違えば、確かに現場の苦境を実感することはないでしょうが、それでも医師会をリードする立場であれば、診療科目や開業医かどうかとは関係なく「コロナ戦線」をサポートできる構想を描き、全国の医師会に声を掛けて医療従事者の総力投入を実現し、コロナ以外の医療も確保することが期待されます。これがいま、尾崎さんたちに求められる行動ではないかと思いません。以上

(小川和久)

賛否両論渦巻く尾崎会長のコロナ対策発言に対して、最前線の医療従事者からは中々手厳しく、まさに尾崎発言の評価及び毀誉褒貶は後生の歴史学者に任せる外無いのかも知れませんが、このようなトップと現場の意見の相克は我々の日常の中にもよくあるように思われます。

バイデン新大統領は1月21日早朝(日本時間)の就任式の中で、「すべての国民のための大統領に～もちろん意見の違いはあっても構いません。それが民主主義です。それがアメリカです。平和的に異議を唱えること、それがこの国の一番の強さなのかもしれません。はっきりと聞くことができます。意見が違うからといって、国が分断することはありません。私は誓います。すべてのアメリカ国民のための大統領になることを。私を支持しなかった人のためにも、私を支持してくれた人のためにするのと同じように、一生懸命闘います。」とスピーチしました。

現在のアメリカ大統領にとっては政治や宗教、そして人種や貧富等々の意見や立場で分断された国民を一つにまとめ上げることが最優先課題であり、その為には最前線に於いて強いリーダーが先頭に立ち、知恵を出し汗を流すことが求められていると考えての発言かと思いますが、78才のバイデンさんにとっては大変な激務だろうと、誠に同情を禁じ得ません。

支持率下落傾向の菅総理大臣や当県の河野知事も、当然バイデン大統領と同じ思いである事は想像に難くなく、全くと同慶の至りと存ずる次第です。(^^)

手指消毒、マスク着用、三密回避を愚直に励行し、呉々もご自愛専一にお過ごし下さい。

令和3年2月1日

宮崎県防衛協会 青年部会 宮崎支部長 小倉和彦

